

令和6年度 園内研修報告書

テーマ

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫
～友達や保育教諭との関わりを通して～



園内研修メンバー

園長：城間 真由美

副園長：照屋 三加代

主幹保育教諭：吉田 美和

指導保育教諭：高良 千尋

保育教諭 座波 裕希乃 知念 麻未子 山城 望実 玉城 美由紀

大城 果菜子 外間 美穂 金城 奈津紀 花城 雄太

宮城 由季乃 玉城 美幸 金城 麻紀子

南城市立幼保連携型認定こども園 大里こども園

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目標	1
III	方法	1
IV	内容	1、2
V	園内研修年間計画	3
VI	構想図	4
VII	実践事例	
	事例1 「保育教諭や友達と共に」	5
	事例2 「しまくとうばに触れ親しむ」	8
	事例3 「ピカピカな泥団子作るぞー」	11
VIII	成果・課題・対応策	14、15、16

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫 ～友達や保育教諭との関わりを通して～

I テーマ設定の理由

近年、グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、こどもたちを取り巻く環境も大きく変化している。そのような社会を生きていくこどもたちには、自分で考えて判断する、進んで行動する、意欲をもって活動するなど主体的に取り組む力を育むことが求められる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説には、「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりする。」と述べられている。「保育教諭等は、一緒に遊ぶ人数に関わらず、園児一人一人が十分に自己発揮しながら、他の園児と多様な関わりをもつことができるように援助し、園児が遊ぶ中で、共通の願いや目的が生まれ、工夫したり、協力したりする楽しさを十分に味わうことができるようにすることが大切である。」と明記されている。そのことから、園児一人一人の特性や発達過程に応じ、発達の課題に即した指導を行えるように環境構成と援助の工夫を考える必要がある。

本園は、戸外遊びが好きで好奇心旺盛な子が多く、園の様々なことに興味をもち関わっている姿が見られる。しかし一方で、コロナ禍を経て同年代の子たちとの関わりや生活経験の乏しさからか自分の思いを押し通そうと言葉よりも先に手が出てしまう子、伝えたい思いはあるが、なかなか言葉が出ずに困っている子などの課題もあると感じた。

そこで、友達や保育教諭との関わりを通して、遊びに主体的に関わり没頭する中で、思考を巡らせ心を動かしながら豊かな体験をすることで遊びこむことができると考え、本テーマを設定した。その手だてとして、保育カンファレンスを行い、カリキュラム・マネジメントを通して、園児の興味や関心を捉え、園児が遊びこむための環境構成と保育教諭の援助について研究を進めていくこととする。

II 目標

友達や保育教諭との関わりを通して、園児の好奇心や探究心を引き出し、遊びこむための環境構成や援助の工夫を図る。

III 方法

- 1 園児が遊びこむための環境構成の工夫を図る。
- 2 保育カンファレンスやカリキュラム・マネジメントを通して、保育改善につなげる。
- 3 園児、保護者、保育教諭がともにワクワク・ドキドキするような環境構成や援助の工夫を図る。

IV 内容

- 1 講師を招聘し、理論研修を行う。
- 2 園児の興味や関心に沿って、室内、園庭の環境を見直し工夫、改善を図る。
- 3 保育ドキュメンテーションを取り入れ、保育内容を可視化する。
- 4 保育カンファレンスを行い、園児の興味や関心を捉え、園児理解を図る。

(1) 遊びこむとは

「園児は、園生活の中で様々な環境に触れ、興味や関心をもって関わり、いろいろな遊びを

生み出す。この遊びを持続し発展させ、遊び込むことができれば、園児は楽しさや達成感を味わい、次の活動に取り組んだ際にもやり遂げようとする気持ちを持つようになる。」と幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説で述べられている。より深い学びとしての「遊びこんでいる」姿について秋田(2009)は、「「遊びこんでいる」とは、第一に「没入している」状態、集中している状態であり、第二にそのこどもたちならではの発想によって遊びが展開継続している過程にある状態であり、第三に遊びの素材を使いこなし、わが物としていく状況といえるでしょう。そのために大人からは一見むだにも見える繰り返しの時間や物が必要になるのではないかと述べている。遊びこむことが主体的に探究できる力の礎になると考える。

(自己を発揮する。遊びや生活の中に目的や目標をもつ。いろいろな事に興味・関心をもって自ら意欲的に関わっていく。自分で遊びを選択し、自ら遊びを展開し、自ら問題を解決しようとする。見通しをもって、遊びをやり遂げる。)

(2) 保育教諭との関わりとは

園児は、自分を温かく受け入れてくれる保育教諭等との信頼関係を基盤に自分の居場所を確保し、安心感をもってやりたいことに取り組むようになる。

保育教諭等は、園児一人一人に思いを寄せ、園児の生活の仕方や生活リズムを共にすることによって、園児の気持ちの欲求などの目に見えない心の声を聴き、その園児の内面を理解しようとする必要がある。

(3) 友達との関わりとは

幼児期は、人との関わりの中で様々な出来事を通して、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しいなどの多様な感情体験を味わうようになる時期である。園児は、嬉しいときや悲しいとき、その気持ちに共感してくれる相手の存在が、大きな心の支えとなり、その相手との温かな感情のやり取りを基に、自分も友達の喜びや悲しみに心が向くようになっていく。さらに友達と一緒に様々な体験を重ねていくことを通して、様々な心を動かす出来事を友達と共有し、相手の感情にも気付いていくことができるようになっていく。

(2) 保育カンファレンスとは

保育の事例や特定の事象に対して、問いをもち、保育教諭間で園児の遊びの姿や保育教諭の関わりと環境の構成などについて感じたことや思ったりしたことの意見を出し合い、幼児理解を深め、保育の質の向上になると考える。

立場や経験年数に関係なく、対等に意見を出し合うことで、自分が知らなかった園児の姿を知ったり、自分にはなかった園児を見る視点に気付いたりして、幼児理解が深まり、園児を多面的に見ていく力が育つと考える。

(3) カリキュラム・マネジメントとは

全体的な計画にも留意しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成する。(組織的配列)

教育課程の実施状況を評価して、その改善を図っていく。(PDCA サイクル)

教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことこれらを通して、さらに、組織的かつ計画的でなければならない。

(4) 園児の興味や関心を捉えるためには

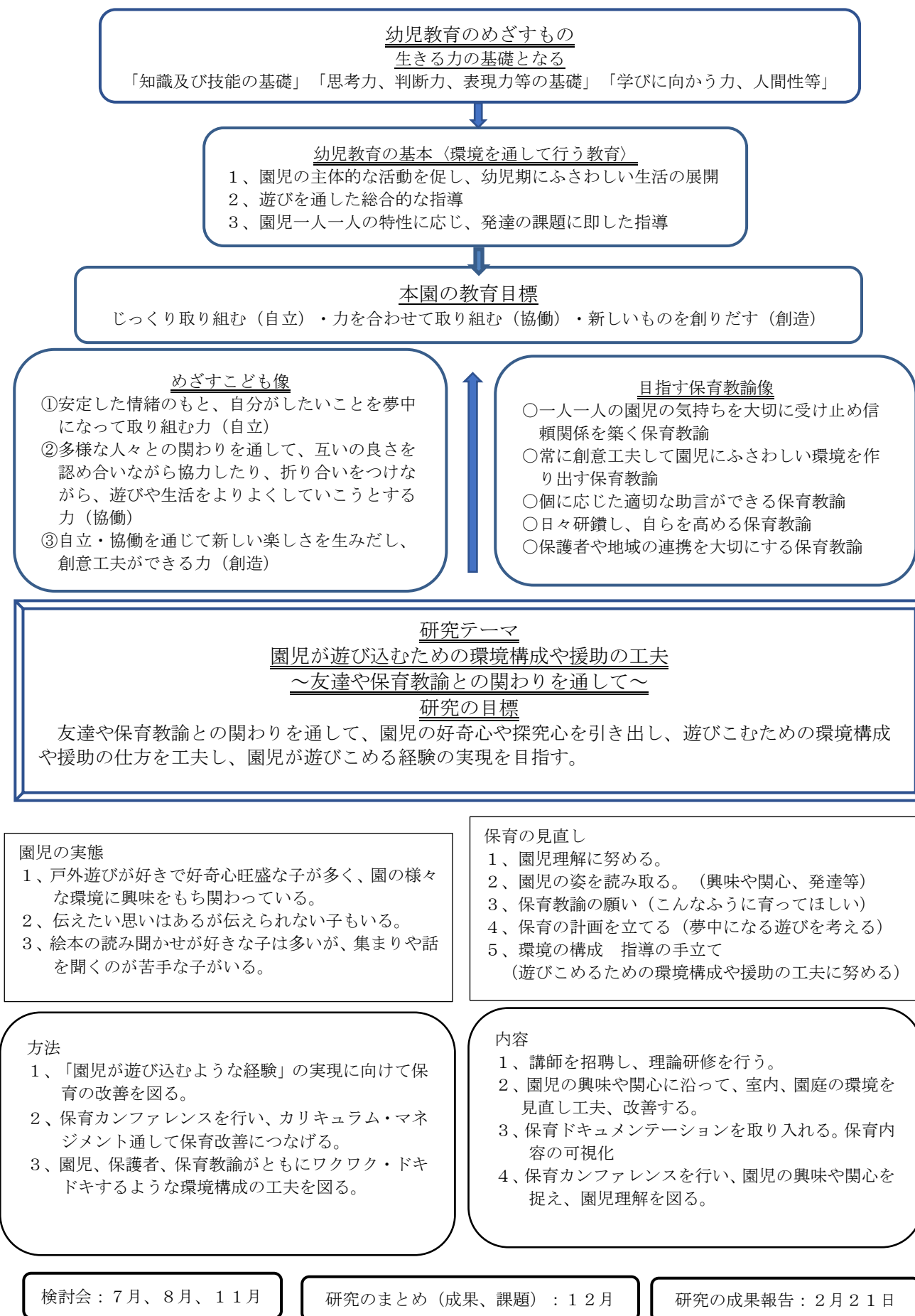
保育教諭は、園児が自ら主体的に環境と関わり、自分の世界を広げていく過程そのものを発達と捉え、園児一人一人の発達の特性(その園児らしい見方、考え方、感じ方、関わり方など)を理解し、その特性やその園児の興味や関心に応じた保育をする。

園児一人一人の興味や関心に基づいた保育をするには、保育教諭が園児の行動やつぶやきなどに温かい関心を寄せ、心の動きに応答する、共に考えるなどの基本的な姿勢で保育をする。

V 園内研修年間計画

月 日	研 究 内 容
4月～5月	・園内研修（各学年） 研究テーマ サブテーマ設定の検討（園児の実態把握を基に話し合う）
5月15日（水）	・園内研修統一テーマの捉え（市主催） 講師：沖縄女子短期大学講師 名渡山 よし乃氏 講話「園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」
5月～3月	・週案会議や保育カンファレンスを実践し、記録に残す。 （期の振り返り） （園児の変容の読み取りと環境構成・援助の見直し）
6月21日（金）	・大里こども園 公開保育&保育の振り返り 指導助言 県幼児教育アドバイザー 國仲 きよみ氏
6月26日（水）	・南城市幼児教育施設保育者等研修会（市主催） 講師：コスモ☆ストーリー保育園園長 天願 順優氏 講話「主体的に遊びこむための環境構成について」
7月9日（火）	・南城市幼児教育施設3～5歳児担任研修会（市主催） 「要領・指針に基づいた保育、指導計画への活かし方」 講師：琉球大学非常勤講師 村吉 和美氏
7月下旬	・事例検討会①
8月19日（月）	・南城市幼児教育施設主任等研修会（市主催） 「要領・指針の指導計画への活かし方①」
9月7日（土）	・幼児教育シンポジウム（市主催） （幼児教育についてのディスカッション）
10月21日（月）	・南城市幼児教育施設主任等研修会（市主催） 「要領・指針の指導計画への活かし方②」 講師：琉球大学非常勤講師 村吉 和美氏
11月22日（金）	・幼小連携事業 大里こども園 公開保育及び合同研修会 指導助言 琉球大学教育学部 講師 宮城 利佳子氏
11月下旬	・事例検討会②
12月	・研究の成果と課題について
1月28（火）29日（水）	・ドキュメンテーション展示会
1月29日（水）	・架け橋期カリキュラム研修会
2月21日（金）	・5園研修報告会 指導助言 沖縄女子短期大学講師 名渡山 よし乃氏

VI 令和6年度 研究構想図



Ⅶ 実践事例

実践事例1「安心できる保育教諭の側で。」 3歳児 4・5月

○園児の姿 ☆環境構成 ◎保育教諭の援助・願い [] 園児のつぶやき

○4月の入園後、保育教諭と信頼関係を築きながら、安心して自ら周りの環境に関わり、好きな遊びを楽しむ姿が増えてきた。不安や戸惑いが強く、保育教諭から離れたがらない子や他児の遊びが気になりつつも、自分から声を掛けられずに側で見ている子もいる。保育教諭や友達のすることに興味をもち、同じ遊びをしようとする子の姿もある。

【健康な心と体】 【自立心】

◎様々な遊びに興味・関心をもち、保育教諭や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしい。

◎好きな遊びを通して友達との関わりを広げていってほしい。



○こどもたちの気持ちに寄り添い、保育教諭との安心した関係作り。



☆こどもたちの遊んでいる様子の写真を添え、室内に掲示し、こどもたちの育ちを保護者と共有する。

☆こどもたちが安心して自分の好きな遊びを楽しめるよう、保育園で慣れ親しんだ遊びをコーナーに準備する。（積み木、折り紙、ブロック、粘土等）

◎一人一人が好きな遊びを見つけられるように保育教諭も一緒に遊んだり、遊びに誘ったりする。

◎不安や戸惑いがある子には、ゆったりした雰囲気の中気持ちに寄り添い、安心して遊びを楽しむように関わる。

◎週ごとに職員間で保育カンファレンスを行い、園児の実態に即した援助や環境構成の工夫について検討し、共通理解を図る。

2. 「興味ある遊びを通して友達との関わりが広がる」 6月頃

○園生活にも慣れ、興味ある遊びをきっかけに友達との関わりが広がっていく様子が見られる。また、友達同士遊びに誘い合いながら好きな遊びを繰り返し楽しんでいる。

【健康な心と体】 【言葉による伝え合い】 【協同性】

◎気の合う友達との遊びの中で、自分なりの表現で思いを伝えようとする姿が育ってほしい。

☆友達との遊びが広がるように室内やテラスの環境の再構成、保育用具や玩具などの数量、置き場所も検討しながら環境を整える。

◎こどもたちがやってみたい遊びに取り組めるように、保育教諭も共に遊びを楽しみながら一人一人の気持ちに寄り添い、共感していく。

～色水遊びでの場面～

チョウマメの花と水を入れ、ぐるぐるかき混ぜるもあまり色がでない子がいる。

A児「こうやったら水色になるよ」

B児「これで押したらこんな色になるんだよ。やってごらん」

C児「うわあ！ジュースみたい」

A児「ゴクゴク。あ～おいしい！」

B児「これもどうぞ！」

色水遊びの場面から、言葉のやりとりの中でごっこ遊びを楽しむ姿が見られる。

こうやってやったらいいかな？



○友達同士で砂山にトンネルを作ろうと両側から穴を掘っている。



○こども達で遊びの場を広げ、友達との関わりを深めている。



○遊んだ後に、クラスでのひとときの時間を設けこどもたちの声を拾いながら、気づきや発見を共有する。

3. 「一緒にやるともっと楽しいね」

10月

○10月、雨の日が続いた時期、室内で段ボールを使った遊びに興味をもった園児から遊びが発展していった。乗り物好きな園児の一声でバスごっこに発展、友達との関わりを楽しみながら遊びが数日続いた。

【健康な心と体】

【言葉による伝え合い】

【協同性】

【豊かな感性と表現】

◎段ボールを使った遊びをきっかけに、友達と一緒に遊び進める満足感や遊びの過程においての言葉のやりとりを楽しんでほしい。

◎一人一人のアイディアや伸び伸びした発想を表現したり、友達とイメージを共有したりしながら遊びを進めてほしい。

☆大胆な遊びが展開できるよう室内の環境を工夫しながら、こども達の遊びの中で必要に応じて援助をしていく。

☆遊びの様子をドキュメンテーションで可視化し、保護者や園児同士が遊びの内容を共有できるようにした。また他の学級の保育教諭にとっても遊びの共有につながった。

A児「ね～！バス作らない？」

B児 C児「いいね！」「僕もやりたい～！」

こどもたちで大きな段ボールを運びながら、イメージを膨らませる。



こうやったら
カッコいいん
じゃない？

D児「色も塗りたいね」

B児「ペンで塗ろう！とってくる！」

一人が色を塗り始めると、他児も一緒になって遊び進める。

A児「ここが運転席にして、ここがお客様の乗る場所ね。」

C児「先生、こうやってテープでとめるの手伝ってちょうだい」

こどもたちなりに段ボールが倒れないように工夫しながら貼り進める。

D児「すごい！バスが出来てきてるね」

その様子を見ていた他児が遊びに加わり、ごっこ遊びが広がる。



僕が運転するから乗
ってください～い！



○段ボール遊びが数週間続き、面白い形の段ボールを見つけた園児が首にかけてみたところ「チョウチョみたい！」と発見。他児がその様子を刺激を受け「作ってみたい」と遊びが広がり、段ボールで作ったチョウチョでごっこ遊びが始まる。「僕は、カマキリ作りたい！」と他児も他の生き物をイメージした遊びが続いていった。その後、普段の遊びの中でも生き物になりきり遊びを楽しんでいた。

【協同性】 【思考力の芽生え】 【健康な心と体】 【自然との関わり・生命尊重】

【豊かな感性と表現】 【言葉による伝え合い】

《考察》

- ・保育教諭が園児と信頼関係を築き、保育教諭と共に安心して好きな遊びを見つけ繰り返し楽しむ姿から興味ある遊びをきっかけに気の合う友達との関わりが広がっていった。
- ・園児の実態に即した振り返り、環境を再構成したことで、言葉のやりとりを交えたごっこ遊びへと広がり、「楽しい！またやりたい！」と繰り返し遊びを楽しむことにつながったと考える。

園児の姿

活動の様子

園児のつぶやき

保育教諭の思い

園生活に慣れ始め、友達同士の関わりも増えてきた6月初旬。給食前の挨拶“いただきます”を“くわっちーさびら”とうちなーぐちで挨拶する際に「くわっちーさびたん！」と挨拶する姿が見られた。「しまくとうばってなあに？」と言葉が分からなかったり「へんなの～」と友達と照れて話すのを恥ずかしがったりする姿も見られる。

園児達がしまくとうばの絵本や手遊びを通して、しまくとうばの言葉に触れ、友達同士で楽しめるような体験を味わってほしい。



絵本の読み聞かせ



しまくとうば手遊びの紹介

しまくとうば手遊び

“たーりーさいハブでーびる”の手遊びを披露すると音のリズムを聞いて「面白い！」と友達同士真似てみたり、口ずさんだりしては日頃から手遊びを楽しむ姿がみられるようになってきた。すると手遊び上手な園児が皆の前で披露することになった。何度も繰り返し披露していくうちに言葉の意味を理解して友達同士教え合う姿も見られる。

たーりーさい！はぶでーびる♪

皆の前で披露したい！



“たーりーさい”は、“おとうさん”だよ！

1学期は人前で発表するのに緊張していた園児が、手遊びを通してクラスの前で発表することを喜んだり友達同士で掛け合いを楽しんだりしながら、しまくとうばに親しむ姿が見られるようになってきた。 【言葉による伝え合い】 【豊かな感性と表現】

園児がしまくとうば手遊びの楽しさを周囲にもっと表現して行ってほしい。

しまくとうば手遊びをきっかけに、沖縄の昔遊びにも興味を示していけたらいいな。

【親子体験活動 指ハブ作り ～7月中旬～】

クラフトテープを使った沖縄の郷土玩具“指ハブ”作りに挑戦する。お父さんお母さんと一緒に作ることを喜び、出来上がった指ハブを使って、舞台上で“たーりーさい”の手遊びを保護者に披露する姿も見られた。また、「お母さんと一緒に作るの楽しかった」と嬉しそうに話す姿も見られた。

作るの難しかったけど、楽しかった！



舞台上で手遊びや今日の楽しかった事を発表する

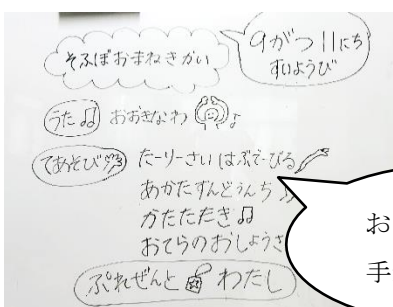


指ハブ作り

【祖父母お招き会 ～9月初旬～】

「おじいちゃんおばあちゃんを招待して、どんな事を披露したい？」と園児と話し合いをもつと、「手遊びしたい！」の声から、“たーりーさい”や“赤田首里殿内”の手遊びを皆で考えていく。

当日は、恥ずかしがりながらも祖父母との触れ合いを楽しみながら手遊びを披露する姿も見られた。舞台上に立つと、緊張しながらも“おおきなわ”を踊ったり挨拶を一生懸命発表する姿が見られた。



おじいちゃんとお手遊びしたい！



【祖父母お招き会を振り返って…】



どきどきしたけど踊るのが楽しかった

おばあちゃんと一緒に手遊びできたのが楽しかった！



お招き会ごっこ

祖父母お招き会を終えて、学級で「お招き会どきどきしたかな？ワクワクしたかな？」と皆で振り返ったところ、それぞれが自分の想いを言葉で発表する姿が見られた。また、お招き会が終わった後も「曲流して～」と入場行進を友達と楽しんだり「ていーち、たーち…」と1列に並んで舞台上に見立てては、お招き会ごっこを楽しむ姿が見られた。

【豊かな感性と表現】 【協同性】 【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

「人形劇はじまりますよ」

11月～12月

園児の姿

活動の様子

園児のつぶやき

保育教諭の思い

11月に人形劇団“かじまやあ”を観劇したことで、「ちょんだらーの人形面白かったね!」「龍がぴかぴかしてきれいだった」など人形の色や動きに興味津々で見入っている様子が見られた。人形劇で感じたものをこども園でもテーブルとイスを用意し“人形劇ごっこ”を模倣して遊ぶ様子が見られた。また一方では、園外保育で採ったススキを使ってフクロウ作りを楽しんでいる姿もみられる。

劇を始める様子



人形劇
始まりますよ♪

ススキを使ってフクロウ作り



口は赤のしーで
貼ろうかな～

完成!



椅子を用意すると
興味をもった友達が集まってきたよ



このフクロウ
人形劇でやりたい!

劇に出てたチョン
ダラーに似てる!



皆の好きな落ち葉のキャラクター
をペープサートにして人形劇♪

ちょんだらーみ
たいにクルクル
まわそう!



人形劇を見た後、落ち葉の絵本にでるキャラクターが「人形劇のチョンダラーに似てる！」の発想から、キャラクターをペープサートとして作り、それを人形劇に取り入れて遊ぶ姿が見られた。「人形劇はじまりますよ～」の呼びかけに沢山のお客さんが集まったことで、照れ屋な園児も張り切って役になりきり参加する姿も見られた。また、作ったフクロウを人形劇に取り入れて遊んだり友達同士工夫しながら遊びを楽しむ姿も見られた。

【協同性】 【思考力の芽生え】 【言葉による伝えあい】 【豊かな感性と表現】

【考察】

- ・手遊びを通して“しまくとうば”に興味をもつことで、沖縄の方言に親しむきっかけとなった。
- ・人形劇“かじまやあ”を観劇したことで、“チョンダラー”など沖縄の郷土芸能に興味をもち、友達同士でイメージを共有したことで遊びにつながったのではないかと考える。
- ・友達と一緒に繰り返ししまくとうばの手遊びを楽しむことで友達の輪が広がったり、お客さんを前に披露することで表現する楽しさや自信をもつきっかけとなった。

実践事例3 「ピカピカな泥団子作るぞ～！」5歳児 10月初旬

○園児の姿 ☆環境構成 ◎保育教諭の援助・願い □□□□園児のつぶやき

○雨上がり、運動場へ出ると「あっ！水たまり見つけた～！」と駆け出す。水たまりに手を入れ、中の泥を手に取り、泥の感触を楽しんでいる。集めた泥で泥団子を作り始める。

◎泥の感触を味わってほしい。

◎友達と試したり工夫したりしながら、泥団子作りを楽しんでほしい。

◎感じたこと試したことなど、友達と言葉や表情で伝え合いながら遊びを進めてほしい。

A児「温かいね！泥がぐちゅぐちゅする！チョコレートみたい！」

B児「どろどろしてる～気持ちいいね！」

A児「洋服が汚れたら嫌だな～」

教諭「洋服が汚れたらどうしよっか？」

B児「洗えばいいんだよ！洗濯板で！」

教諭「いい考えだね！絵本のせんたくかあちゃんみたいだね！」

B児「そっか～！あとで洋服泡だらけにしよっと！じゃあ、たくさん泥団子作る！食べる～？」

教諭「おいしそう～！先生くいしんぼうなんだよな。」

C児「じゃあ、たくさん作ろうぜ！」



○園庭にあるテーブルの上に、いろいろな大きさの泥団子を並べる。泥団子がどんどん増えていく。数を数えたり、大きさを比べたりと友達同士顔を見合わせながら満足そうに笑っている。

◎夢中になっていると休憩をとるのを忘れがちなので、細めに水分補給ができるよう声をかける。

◎友達と新たなことを思いついたり、感じたり、気付いたり、考えたり、疑問に思ったことなどを伝え合いながら、工夫したり協力したりして遊びを楽しんでほしい。

○遊びの振り返りの時に紹介すると、他のこどもたちも興味津々で泥団子作りの様子を聞いたことで泥団子遊びが広がっていった。

☆いろいろな泥で試すことができるよう、クチャや赤土などを用意し環境を工夫した。

☆園児と相談して室内に製作した泥団子の置き場所を作る。

【翌日】

○朝から絵本コーナーへ行き、泥団子の本を探す。本に載っているピカピカな泥団子に憧れを持ち、ピカピカな泥団子を作る為に、どうしたらいいのか話し合っている。

◎絵本のページをコピーし、いつでも見える場所に掲示する。

○この日も泥団子作りに何度も挑戦する。天気がよく泥の塊が大きく、思い通りに丸くならない。

A児「きれいな丸にならない…」

E児「なんかぼこぼこしてる。固くてこっちが丸くならない。」

B児「もっと水つける？」

A児「あっ！なんか指に水つけて、めっちゃ擦ったらぼこぼこしてたのへっこんできた！」

E児「ぼこぼこいっぱいあるから、擦るの大変～！指いたくなってきた。」

D児「泥団子の本取ってくる～？」

A児「うん！お願い！」

○泥団子の絵本に出てきた、仕上げのさらさら砂に目を付ける。

E児「泥もさらさらにしたらできるかな？」

A児「あっ！いいかも～。やってみよう！」

チャレンジ～！」

B児「バケツとってくる～」

A児「みんなでいっぱいさらさら泥集めるぞ～！」

なんか変な形～！



まん丸にしたいけど、ぼこぼこがなくなる～！

2. 「さらさらな泥作り！」

○さらさらにする為、工夫しながら泥の塊をすり合わせて細かくしていく。「いいこと考えた！」と、細かくした泥を砂場遊びで使っているふるいにかける。細かい泥を集めることに成功した！「さらさら～気持ちいいよ！触ってみて！」と、友達や保育教諭に得意げに話す。

◎こどもの気付きや発見を友達と伝え合う姿や、じっくり取り組む姿を認める。

◎週立案の時間を活用し保育カンファレンスを行い、多角面から遊びを捉え、園児理解を深めていく。

○「どんなしてさらさら作ったの～？作り方教えて！」と、興味をもった園児へ泥団子を作る過程を教える。失敗したことや試したことなど、一緒に作ってきた友達と笑い合いながら伝えている。

☆遊びが継続・発展するよう、保育ドキュメンテーションを活用し遊びの過程を可視化し、掲示や保護者へ配信する。

手が疲れた～！でも、もっと集めるぞ！



うわ～さらさら！触ってみて！あと、20数えたらフリフリするの交代しよう！



○手作りの保育ドキュメンテーションを使っての遊びの発表を聞いて「やってみたい～!」「仲間に入れて～!」と、ワクワク!



保護者へコドモンアプリを活用し遊びの様子を配信



ぴかぴか泥団子
作ってみたい

掲示している園児手作りの保育ドキュメンテーションを見て、他の園児も遊びに興味をもっている様子

3. 「水はこのくらい?」

- ◎友達と考えたり試したりしながら、遊びを進めてほしい。
- ◎作った物や途中の材料を置く場所をこどもたちと相談し泥団子コーナーを作り、自分たちで遊びを進められるようにする。
- ◎保育教諭も遊びを楽しみながら、自分の気持ちを上手く伝えられない子に寄り添い、自分の言葉で表現できるよう援助しながら、みんなで力を合わせて取り組めるようにする。

○さらさらな泥をたくさん集めると、早速泥団子を作り始めた。初めは水を一気に入れてしまい、泥を上手く丸めることができない。

A児「あ～だめだ!ぐちゅぐちゅで丸くならない…もう一回チャレンジだ!」

教諭「どうしてぐちゅぐちゅになったのかな?」

A児「たぶん…水いれすぎだよ。」

D児「じゃあ、次はちょっぴりずつ入れよう!」

○別の容器にさらさら泥を準備し、相談しながら水を足していく。

B児「水はこのくらい?もっと～?」

D児「もうちょっと入れてみよう!」

A児「おっ!触ってみて。いい感じ!」

B児「あっ!いいね～丸くなるか実験してみよう。」

D児「このぐちゅぐちゅのやつに、泥足してみてもいい?」

もうちょい!

もっと水入れる?!



いい感じ～!



A児「そしたら丸くできるかも！やってみよう！」

○何度も水や泥の量を調整しながら混ぜ合わせ、泥の感触や形状の変化を楽しみ友達と発見や考えたことを伝え合いながら、泥団子作りを進めていく。

4. 「ピカピカにするぞ〜！」

◎泥団子作り名人の先生のピカピカ輝く泥団子を掲示する。

◎園児が見つけた、磨く素材置き場所を作る。瓶の取り扱いには気を付ける。

◎共通の目的をもち、アイディアを出し合いながら遊びを進めてほしい。



保育教諭のピカピカ
輝く泥団子

○保育教諭の作った輝く泥団子を見つけ「かっこいい〜！触らせて！」「宝石みたい！」と憧れを抱く。「どうやったの？」「これで磨いてみよう！」と、泥団子をピカピカにするために新聞紙や瓶、フェンスを支える鉄棒や段ボール等、いろいろなものや場所で泥団子を磨き、友達と泥団子の様子を見比べている。

○途中、泥団子が割れてしまい悔しがっている。指に水をつけて直してみるが、上手くいかない。周りの子が声をかける。

A児「また、作ればいいんだよ！一緒に作る〜？」

B児「俺の泥団子、ちょっと触ってみる〜？持ってみてもいいよ！」

○泥団子作りの過程をクラスみんなで共有することで、泥団子に興味をもち、泥団子作りに挑戦したり、作っている様子を覗いたりする子が増えた。



いま3個目！もっとでっかい
ピカピカのやつ作る！



色もつけた〜！



○いろいろな場所や物で磨き、友達の泥団子と見比べる。

【考察】

- ・泥団子作りで気付いたこと、考えたことなどを友達や保育教諭と伝え合うことで、友達の考えの面白さに気付いたり、新しいアイデアを生み出したり、協同して活動する楽しさを味わうことができた。
- ・色んな泥で試せるようにクチャや赤土を用意することで、泥の感触を味わい、試したり工夫したりして泥団子作りを楽しむことができた。
- ・十分に遊べる時間の保障と自分たちで泥団子を作れるよう作り方をコピーして掲示することで遊びが広がったと考える。
- ・遊びが停滞した時、保育教諭のピカピカの泥団子で憧れをもたせたことで意欲的に関わりをもつことができた。
- ・こどもたちと泥団子の置き場所などを相談してコーナーを作ることで、自分たちで遊びを進めることができ、遊びの継続へとつながった。
- ・保育ドキュメンテーションを取り入れた遊びの振り返りを通して、園児の「楽しかったこと」を次につなげていくことで、遊びを展開したり、自分たちで遊びを進めたりする楽しさにつながった。

Ⅷ 成果・課題・対応策

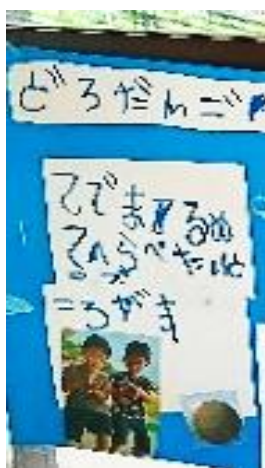
《成果》

- ・週立案の時間を活用し保育カンファレンスやカリキュラム・マネジメントを行い、多角的に遊びを捉え、園児の興味や関心を捉え、援助や環境構成を工夫したことで遊びが広がり、遊びこむ姿につながった。
- ・保育ドキュメンテーションを活用し遊びの過程を可視化し、遊びのイメージを共有できるようにしたり、園児と環境を再構成したりしたことで継続した遊びの展開につながった。
- ・園児が心動かされるような体験を通して、「面白そう、もっとやりたい」という園児の心の動きを捉え、園児の姿や保育教諭の援助について話し合い、その時期や園児の実態に応じた、必要な育ちや保育教諭の援助を確認しながら保育を見直すことで、遊びが発展し遊びこむことにつながった。

《課題・対応策》

- ・園児同士、協力したりする楽しさや充実感を味わうことができるよう、園児の個性や良さを捉えた、更なる援助の工夫が必要である。
- ・園児の心を揺さぶり、友達との関わりが深まるような体験ができる環境構成と援助の工夫。（土山などを作り、泥や土をもっとダイナミックに関わるができる環境作り等）
- ・幼児理解に努めながら遊びに必要な環境構成を行ってきたが、遊びが更に発展していくように個々の発達段階に合わせた援助や環境構成の工夫が必要である。
- ・発達段階を捉え学年間だけの遊びにとどまらず異年齢の良さを考慮し、職員間で遊びを共有する機会を設ける必要がある。異年齢で遊びを共有することで刺激を得ることができ遊びの広がりも期待できると考える。

こどもと共に作った保育ドキュメンテーション



たくさん磨くと
ピカピカ泥団子に
なるよ。

楽しそう。
ピカピカ泥団子
作ってみたいな。

泥団子の作り方の保育ドキュメンテーションを使って、遊びの紹介をしている。



保育ドキュメンテーションを活用し遊びの過程を可視化することで、遊びのイメージを共有できるようにした。また保護者にも園児の育ちを共有している。

保育カンファレンス



保育教諭の意図とこどもの姿・興味関心を絡み合わせて保育を進めていくにはどうする？